

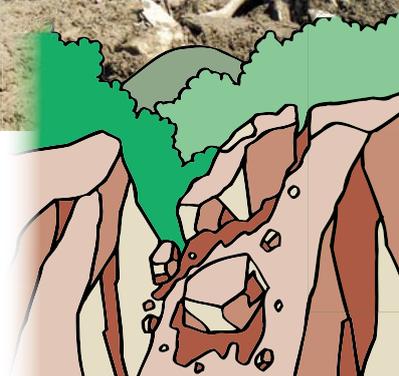
広島市で発生した過去最大級の土砂災害

命を守るため、私たちも 十分な警戒が必要です

広島市で8月20日未明に発生した土砂災害では、74人の尊い命が失われ、多くの住宅などが被害を受けました。発生から1カ月以上が経った今も、現場では懸命な復旧作業が続いています。
がけ崩れや地すべり、土石流などの土砂災害は、さまざまな破壊力をもつ土砂が一瞬にして多くの命や財産を奪ってしまう恐ろしい災害です。三原市と広島市は、気候や地質に類似した点が多く、同じように土砂災害の起こりやすい地域です。今回の災害を他人事と考えず、私たち一人ひとりが日頃から防災意識を高めておくことが重要です。



▲大規模な土砂災害が未明の住宅街を襲いました





▲大量の土砂と大きな岩が被害の大きさを物語ります

■日本は土砂災害多発地域 ～拍車をかける短時間豪雨

傾斜が急な山が多く、台風や大雨、地震などの多い日本は、もともと土砂災害が多い国です。国の調査によれば、土砂災害が発生する恐れのある危険箇所は全国に約52万カ所もあります。過去10年間の土砂災害発生件数をみると、平均で年間約1,000件もの土砂災害が発生しています。

近年、土砂災害が頻発する原因になっているのが、短時間で局地的に大量の雨が降るゲリラ豪雨です。広島市の土砂災害の場合、現場付近ではわずか2時間の間に200ミリを超える雨が降り、160カ所余りの土石流やがけ崩れをもたらしました。

1時間に100ミリ前後の雨は、叩



広島市安佐南区、安佐北区を中心に、160カ所を超える土砂崩れなどが相次いで発生しました(写真出典:国土地理院)

き付けるように降る雨や跳ね返った雨粒のしぶきで、前や地面がほとんど見えなくなり、あまりの雨量に息苦しさや恐怖さえ覚えるほどの降り方だといえます。「明らかに普通とは違う」、そう感じるほど猛烈な雨です。

また、日本には流れが急な河川が多く、流れが速いほど川底や岸の土を削る力も強くなります。そこへゲリラ豪雨による大量の雨が流れ込むことで、その力が一気に大きくなり、大規模な土砂災害へとつながる場合があります。

■土砂災害が発生しやすい広島県 ～三原市も警戒が必要です

広島県は全国でも特に土砂災害の危険が高い地域といわれ、県内の土砂災害危険箇所は都道府県の中で1番多い約3万2000カ所におよびます。

それは県内の広い地域を険しい山地が占めていることに加え、もろく崩れやすい「まさ土」が広範囲に分布し、この軟弱な地質がたびたび土砂災害を引き起こす原因になるからです。今回、災害が起こった広島市北部もまさ土が中心の地質でした。

まさ土は、花こう岩が風化して砂状になった地質で、日本では関西地方から西の山地に広く分布しています。水分を含むともろく崩れやすくなる性質があるため、大量の雨によって地面の表層が崩壊し、土砂崩れや地すべりを引き起こしやすいといわれています。

三原市でも西部から北部に向け、市内全域の概ね4分の3にまさ土が分布しています。

このような地形や地質などから、市内には土砂災害危険箇所が1755カ所(土石流危険渓流・512カ所、急傾斜地崩壊危険箇所:1243カ所)と、警戒が必要な場所が多くあります。

もし広島市と同じような記録的豪雨が三原市を襲ったとしたら。大きな被害につながる土砂災害が発生する恐れは、十分にあるといえます。

■大切なのは日頃からの警戒 ～まず危険箇所の確認を

土砂災害が起こる前には、「山鳴りをする」「急にわき水が出る」など、いくつかの前触れがあるといわれています。また、

参加費無料

親子で防災について 考えてみませんか

25日(土) ① 11時～② 14時～

東日本大震災の被災地である宮城県
の保育士や幼稚園教諭などが集ま
った子育て応援団「ジャイアンとば
ぱ」を招いて、親子で防災について学
べるイベントを開催します。

ところ 本郷生涯学習センター

内容 ①親子で楽しく遊びながら
防災について学べるイベント②被
災地の現状についての報告会

定員 各130人(申し込み先着順)

申し込み 電話でほんごう子ども図
書館(☎0848・86・6066)へ



▲復旧作業に当たる住民たち(須波町)



▲現場では今も懸命な復旧作業が進められています

土砂災害の多くは大雨が原因で起こるため、1時間に20ミリ以上の強い雨が降ったり、降り始めてからの雨量が100ミリを超えたりした場合は、要注意です。

土砂災害発生危険性が高まった場

合、広島県と気象台が土砂災害警戒情

報を発表します。発表されたら、天候

や雨量、土砂災害危険箇所の状況など

に注意し、早めに避難してください。

どうしても避難するのが難しい場合は、

2階やがけから離れた部屋など、家の

中より安全な場所に避難しましょう。

現在の気象予報技術では、土砂災害

や局地的な大雨を正確に予測すること

は困難です。避難勧告などが間に合わ

ないこともあります。自分の住む地域

ではどんな災害が起こりやすいのか、

危険な区域や場所はどこか、普段から

確認しておくことが大切です。

危険箇所は、市が配布した総合防災

ハザードマップや市ホームページで確

認することができます。

いざという時、迅速に行動できるよ

う、私たち一人ひとりが日頃から備え

ておくことが大切です。

忘れてはいけない災害の記憶

昭和42年7月豪雨災害

かつて三原市でも、土砂崩れに
よる生き埋めなどで20人が亡くな
った大規模な豪雨災害がありました。

市に残っている記録によれば、昭
和42年7月9日午後、梅雨前線と
台風が重なった影響で、市内に前
日から降り続いていた雨が一層激
しくなりました。

午後3時、集中豪雨により糸崎
駅付近が冠水、午後4時には急激
に増水した和久原川が氾濫し、三
原駅構内も水浸しとなりました。

降り始めからの雨量が230ミ

リに達した午後5時ごろ、消防署に
「土砂崩れで生き埋めになった。救出
を頼む」といった内容の通報が次々
に入り始め、午後6時過ぎには生き
埋め被害の通報は10件以上に達しま
した。

その頃、木原、須波、沼田東、宗
郷、西野、西宮などの各地域では、
土砂崩れや河川の氾濫が相次いで発
生していました。20人を超える人が
土砂の生き埋めとなり、多くの家屋
が倒壊や浸水の被害を受けました。

災害発生当初から、消防署や消防
団、地元住民などによって、昼夜を
問わない懸命の救出作業が続けられ、
災害発生から4日後、行方不明だっ
た最後の1人が発見されました。

「昭和42年7月豪雨災害」と呼ばれ
るこの災害は、死者20人、負傷者23
人、家屋全壊269戸、家屋浸水1
万2860戸、土砂崩落836カ所
という甚大な被害を三原市にもたら
しました。

☎危機管理課

☎0848・67・6066